

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあいげきだんかぜのこきゅうしゅう		団体ウェブサイトURL
	企業組合劇団風の子九州		https://www.kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表理事 仮屋 祐一		
制作団体所在地	〒 814-0002	最寄り駅(バス停)	地下鉄 西新駅
	福岡県福岡市早良区西新5-5-13		
電話番号	092-841-7889		
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこきゅうしゅう		団体ウェブサイトURL
	劇団風の子九州		https://www.kazenoko-kyushu.com
代表者職・氏名	代表 仮屋 祐一		
公演団体所在地	〒 814-0002	最寄り駅(バス停)	地下鉄 西新駅
	福岡県福岡市早良区西新5-5-13		
制作団体 設立年月	1993年 3月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 仮屋祐一 理事 浅野由美子、理事 川島二郎 理事 中寫 司、		俳優:12名、企画制作部:6名 文芸演出部:1名 【合計19名】 ★加入条件等・18歳以上の健康な人、面接・オーディション有
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	仮屋祐一
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	鈴木恵美

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子九州】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	-	
企画名	「なるほ堂ものがたり」公演		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演 目:「なるほ堂ものがたり」 ・脚 本/山本佐助 ・台 本・演出/あさのゆみこ ・美 術/小峯三奈・山本佐助 ・歯車製作/北川正憲 ・音 楽/曲尾友克 ・振 付/玉木聡美 <div style="text-align: right;">公演時間 75 分</div>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名
	該当事項がある 場合	権利者名 音楽使用：曲尾友克	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>(あらすじ) 小学5年生の良太と聡は親友同士。放課後、いつも一緒に遊んでいたが、聡の塾の数が増えたので良太はつまらない。聡の塾のない日を狙って、聡の家に上がり込みますが、聡は一人でゲームに夢中。実は良太は聡に打ち明けなくてはならないことがある。一人暮らしのおばあちゃんの為に家族で引越すかもしれないということを言い出せない。でも、優柔不断な良太は親友との別れを切り出すことがなかなかできない。聡は、何か言いたそうなのに、言えないでいる良太に少しイライラしています。</p> <p>そんなある日の夕方、母子家庭の聡は夕食用の弁当を買いにコンビニへ出かけます。良太も付き合いますが、途中二人は、いかにも怪しいおじいさん(実は未来から来た科学者)と出会います。好奇心旺盛な二人が後を付けていくと、「なるほ堂」という気味の悪い店に入っていきます。二人も中に入ると、そこには変な商品がいっぱい陳列されています。聡はお互いの心を入れ替える事ができるというチェンジ玉を買います。ある日、チェンジ玉で心を入れ替えた二人は、それぞれの家に帰って行きます。聡は戸惑いながらも賑やかな夕食の時間を過ごしますが、良太のお父さんが発した言葉に良太の聡にたいする意外な気持ちを知ることになります。それ以来、二人の関係は気まぐれなり、取っ組み合いのけんかまで発展して、本音を発するお互い本音を吐露してしまいます。前思春期の子どもたちの心の揺れを描いた作品です。二人が本心で語り合えるまでを描いています。</p> <p>*2007年度、2008年度、2009年度文化庁「本物の舞台芸術体験事業」採択作品 *2010年度、2011年度文化庁「子どものための優秀舞台芸術体験事業」採択作品 *2012年、2014年度文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」採択作品 *2022年文化庁「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業一巡回公演事業一」採択作品 【社会保障審議会推薦・児童福祉文化賞推薦】作品</p>		
演目選択理由	<p>学校での演劇鑑賞行事での先生方からリクエストが多い演目です。初演は、2005年です。前年2004年、地元九州佐世保の小学校で6年生の女子が、同級生を殺害するという痛ましい事件が起こりました。この学校では毎年命を考える追悼集会が行われています。私たちは、この事件にも凄まじいショックを受けました。これまで、何回も公演してきた学校でもあり、もしかしたら二人とも私たちの演劇を観てくれたかもしれません。そこで、翌年、子どもたちのコミュニケーションをテーマにオリジナル作品を制作することにしました。当時、面と向かって本音を語り合えない子どもたちが多く存在し、小学生にもチャットなるものが進出しコミュニケーション手段として広がっていました。今では更なる科学の進歩により、簡単に新しいツールが子どもたちに浸透してきて、友だちと面と向かって本音で語り合える機会がますます減ってきています。子どもたちの成長にとって、友だちはとても大きな存在です。子ども時代の体験は、大人社会を生きていく大きな財産になります。前回の公演の際、公演後子どもたちを体育館出口で見送っている時、先生ほどの体軀の6年生の男子が目には涙をためて、良太役の女優にハグしてきました。この子の背景に何かあるのか知る由も無いですが、この情景に劇団員一同、この演目の持つ力や価値を確認しました。6年ほど空けて今年度の再演ですが、子どもたちの求めているものは普遍で、子どもたちや先生方に好評を博しています。益々行きづらい時代、子どもたちに必要で届けなくてはならない演目と確信します。</p>		
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>*可能であれば、2場面に出演してもらいます。</p> <p>・「どこでも音楽隊」というオルゴールのような商品から現れる音楽隊のメンバーとして参加。小さな箱を開けて、良太が今の気持ちをいうと、「どこでも音楽隊」の演奏と歌がはじまります。出演している子どもたちは良太のはなった「ワクワク」の気持ちを音楽をダンスと言葉(歌)で表現します。シンプルな歌とコミカルダンスで、楽しく盛り上がる場面です。(出演者数、上限40人)【別紙あり:出演場面】</p> <p>・ラストは、テーマ曲を合唱します。舞台セットの大きな2台の歯車オブジェが、初めて合体して回り始めます。色々な形やデザインの歯車が絡んで回る様子はコミュニケーションを表現しています。その前で子どもたちが歌うシーンは会場全体に感動の輪が広がります。(出演者数上限40人)</p> <p>・参加する子どもたちは、身近にあるもので簡単な衣装を先生方と考えて当日それをつけて出演します。ただ単に参加するだけでなく、自分たちで事前準備をする事で、本公演への期待感をもち本番を楽しむことができると思います。</p>		
出演者	・玉木聡美、中嶋 司、小山 隼、稲永清音、寺崎花絵、鈴木勇治、伏貫哲也、平田怜奈 (出演メンバーが変わることがあります。)		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名 スタッフ: 0 名 合 計: 8 名	運搬	積載量: 1 t 車 長: 7 m 台 数: 2 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時	13時半～15時15分	0分	16時～18時	18時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	0日	0日	5日	10日	
	11月	12月	1月	計	40日	
	10日	10日	0日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	～35名程度
		鑑賞人数目安	400名以下(本公演出演児童人数:～35名)

※体育館フロアに舞台設置（舞台必要寸法：15m×12m）
 (写真1) 基本舞台は、センターに半円の舞台。キャスト付きの大きな歯車のオブジェ2体



(写真2) なるほ堂登場



(写真3) なるほ堂店内



(写真4) ラストは、2体の歯車オブジェが合体して回ります。かみ合って回ることによりコミュニケーションを表し、出演者全員でテーマソングを歌いあげます。



公演に係るビジュアルイメージ
 (舞台の規模や演出や
 がわかる写真)

※採択決定後、採
 択団体へ図面等詳
 細の提出をお願い
 します。

【公演団体名 劇団風の子九州】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	1～35名程度
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>(90分:休憩含む)</p> <p>①劇団側の自己紹介をします。</p> <p>②子どもたちの緊張をほぐすために、アイスブレイク的なゲームをします。</p> <p>③おおまかなストーリーを紙芝居形式で伝えます。</p> <p>④2チームに別れ、別会場で練習します。 Aチーム:劇中の「どこでも音楽隊」のダンスと歌を、役者の芝居に合わせられるように練習します。(体育館) Bチーム:ラストのテーマソングの練習をします。体育館で本番での大まかな位置を確認し、ステージへの登場や退場の方法まで練習します。</p> <p>⑤最後に、両チーム体育館に集まり、お互いの成果を発表しあいます。舞台上に立って、見られるという意識を確認してもらい、本番に向けて更なる練習を積んでもらいたいと考えます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>①子どもたちは思春期の入口にさしかかる頃、自我の目覚めと共に他者からの目を意識し始めます。そのことにより人前に立つ、または人前で話す、ましてや人前で演じるということに相当なプレッシャーを感じる子どももいます。そこで演劇とは「ごっこ遊び」や「まねっこあそび」の延長であり、今回の舞台表現は「遊び」としてみんなで楽しんで演じてほしい」と伝えるためのワークを心がけます。</p> <p>②学校側としては、出演出来る児童を選抜するのが難しく、クラス全員で取り組みたいとの要望があります。そこで、二つの場面共、上限を35名程度として、ワークショップとその後の本番に向けての練習をクラス一丸で取り組んでもらい、クラスの団結という教育的効果に配慮します。</p> <p>* 事前に、実際の子どもたち出演場面のDVDや、歌ってもらったテーマソングの楽譜やCD音源を送付して、出演場面のイメージを持ってもらったり、テーマソングを聞いてもらったり練習してもらい、ワークや本番に向けてのワクワク感を醸成してもらいます。 ワーク当日は、最後に、お互いの練習の成果を発表し合い、出演する際の慣れや観てもらった感覚を自覚してもらい、本番に向けて更なる精進を促します。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>特別支援学校では、各子どもたちの被支援の状況を先生方と綿密に打合せを行い、表現方法の可能性を探っていきます。例としては、ベットの子どもさんに鳴り物を持ってリズムをとってもらい、車椅子の子どもさんは先生が一人ずつ付いて車椅子ダンスを披露したことがあります。</p> <p>*コロナ禍での本事業において、学校(教育委員会)側から子どもたちが舞台上で歌うことの自粛を求められたケースが数校ありました。そこで、来年度の対抗策として、テーマソングの歌詞を手話で表現してもらい、本事業のねらいである共演での舞台芸術とのふれあいを保証したいと考えます。</p>		

リンク先	No.2	【公演団体名	劇団風の子九州 】
<p>項目内容:児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>*音楽隊のポーズを決める子どもたち</p>		
	<div data-bbox="475 421 1382 902" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="434 943 1425 1252" data-label="Image"> </div> <p>《参考資料》</p> <p>本年度実施していただいた学校の校長先生からのお便り</p> <p>拝啓清秋の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。 さて、先日の令和4年度文化芸術による子ども育成推進事業巡回公演「なるほ堂ものがたり」公演の折には、早朝より来校され、本校児童生徒に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を与您とてくださりありがとうございました。</p> <p>劇団風の子九州の公演では、観客が小学1年生から中学3年生と年齢差がある中、どの学年の児童生徒にも笑いを起こすユーモア溢れる演技、75分間飽きさせない場面構成と脚本、そして、8人で演じているとは思えないほどの魅力的な登場人物の数々、本校体育館が大劇場に変わったのではないかと錯覚するくらいで、児童生徒だけでなく教職員も話の中にぐいぐい引き込まれていきました。主人公が親友に対して思いをぶつける場面では、思わず涙ぐむ児童生徒教職員もありました。また、小学部の3、4年生には、ワークショップやリハーサルでの和やかな演技指導を通して、表現することへの意欲づけを行い、本番のステージでは、達成感を共有する楽しさを感じさせていただきました。公演後の振り返りでは、普段あまり話せない児童が手を挙げて発言する姿も見られ、児童の心に残る公演になりました。</p> <p>今回、縁あってこのような本物の舞台芸術に触れることができたことは、児童生徒にとって大変幸せなことだと思います。いつかまた、別のお話で児童生徒の心を耕していただけたらと思います。児童生徒の感想を同封しております。つたない文面ではございますが、ご一読いただければ幸いです。</p>		